

木質バイオマスで4工場に熱・電供給 津別単板協同組合

受賞のポイント

北海道の地元針葉樹の木材工場から発生する大量の木屑を直接燃焼することによって電気及び熱として回収、廃棄物処理コスト及び工場内エネルギーコストを削減し、経済的な木質バイオマスコージェネレーションシステムを構築している。更には、発生した電力の一部をグリーン電力としても供給しており、地域特性を生かして林業、木材製造業とバイオマスエネルギー利用を両立させた事業を実現して、木質バイオマスの有効活用事例として高く評価された。

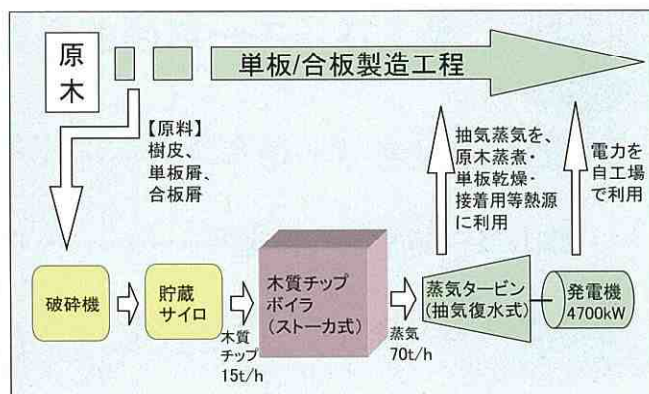
導入活動の概要

地元の林業と協調しながら木材資源の造林・育林・利用で地産地消型資源サイクルを実行し、100%国産植林木で単板・合板を製造。工場端材(7万ton/年)を木質燃料とするバイオマスコージェネレーション設備導入により産業廃棄物及び化石燃料(原油換算 2.4万kl/年)を削減し、工場の熱・電気エネルギーの、ほぼ全量を供給。平成19年度実績で69,000tのCO₂削減を実現。

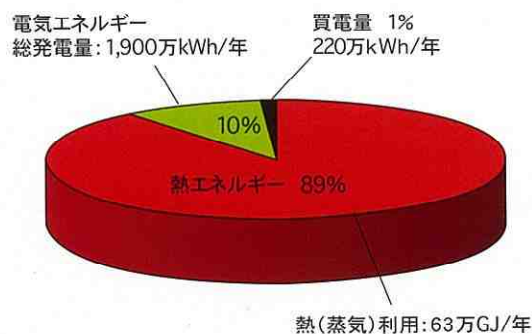
工場の外観



バイオマスコージェネレーション設備の概要



新エネルギー利用状況 (平成19年度実績)



※平成20年度グリーン電力証書(O8B003)取得
グリーン電力1,800万kWh/年を販売契約する。

新エネルギー利用経済効果

